



豊中市教育センター  
〒560-0033 豊中市蛍池中町3-2-1-600  
TEL 06-6844-5290  
FAX 06-6840-8127

平成18年(2006年)5月19日 第19号

## 若い先生方のサポートを

近頃、教育センターの研修にこられる年齢層をみていると、若い先生方が増えてきていると実感します。勿論、初任者研修の対象者も増えており、昨年度、大阪府教育センターが初任者研修についてのアンケートをとられたところ、有意義だった研修内容については、小・中学校ともに「研究授業」が1番目でしたが、2番目は、小学校「授業づくり」、中学校「生活指導」との回答でした。教員生活の悩みについては、小・中学校ともに1、2番目は「授業方法、学級経営」でしたが、3番目は小学校「保護者との関係」、中学校「生徒との関係」でした。この点が有意義だった研修内容の回答に表れているところなのではないでしょうか。

授業方法については、校内・校外の研修のなかで先輩の先生方にアドバイスやサポートを得ていかれるでしょうが、保護者や子どもとの関係は、さまざまな状況やタイプとの対応であり、経験年数にかかわらず心を砕くところです。人とのかかわりの職業において、誠実に対応したいとの思いが強すぎると、相手の気持ちや考え、感じ方よりも、自分の言いたいことやわかってほしいことを優先し、相手が自分がいったことをどう感じて聞いているのかを余裕をもって判断できなくなります。また、これだけいってもわからないのかと相手を批判したい気持ちになります。

自分が一方的に話すのではなく、相手の反応を見ては、感じ方を確かめ、相手が何を求め、自分は何ができるのかを考えながら対応することが必要となります。保護者対応等に悩まれたときも、一人で抱え込まず、まわりの方々にアドバイスを求め、対応を進めていただけたらと思います。

教育センターも、さらに教職員の方々をサポートできる研修内容や事業、相談を心がけていきたいと考えております。本年度より、土曜日の午前中も開所していますので、どうぞご利用ください。(榎本)

### サタデー・サポート 土曜日9:00~12:00

- ◎ サタデー相談《保護者・子ども》7階
- 予約による初期教育相談(子どもの心理や発達に関して)
- ◎ 教科書閲覧《市民・教職員》6階ロビー
- ◎ 教育図書・教材等の閲覧《教職員》6階ロビー・教科領域研究室





# 研究・研修係から

※すべての研修について、たくさんの方の参加をお待ちしています。

※教育センターが実施しています各研修については、研修一覧表を参照してください。

## 研修345って？



本年度から新しくスタートします！「けんしゅうさんよんご」

短時間ですが、3時45分開始、様々な課題のつぼを押さえるという研修を企画しました。若い世代の先生方が増え、悩みもさまざま…でも同じようなことで悩んでいることもあるのでは？学校をこえて、同じ世代の方同士コミュニケーションをはかっていただくこともできたら…と願っています。

みんな・よって・Go! 一緒に新しいスタイルを追求してみませんか？

たくさんの方の参加をお待ちしております。

## エール・YELL

「先輩からのメッセージ エール・YELL—教壇に立つあなたたちへ—」の作成にあたり、ご協力ありがとうございました。今年度は、授業（教科・領域）にかかわってアドバイスをいただけたらと思っております。よろしく願います。

## 研究協力員 大募集！

昨年は小・中学校あわせて14部会、65名の方に協力員として、授業を中心にすえた研究を進めていただけてきました。これまでの研究成果を引き継ぎ、豊中発！どの子ども大切にする授業の創造をめざして、仲間が増えることを願っています。

## 授業（保育） 実践論文 募集中！

昨年度は市立小学校8編、市立中学校4編の論文の応募をいただきました。日ごろの実践を論文の形に整理することで、子どもたちにつけたい力や授業後の課題が明確になります。校務多忙な中ですが、これまでの授業（保育）実践を夏季休業中に論文にまとめて、応募してみませんか。

# 養護教育係から



## 養護教育係からのお勧め

これまでの研修や巡回相談等の参加者、利用者のお声を生かし、今年度はよりきめ細やかな、より具体的な支援ができるような以下の事業を企画しました。

## 特別支援教育事業

豊中市として2年目を迎える特別支援教育事業。コーディネーター養成研修Ⅱの他に、今年度は巡回相談を充実します。対象の幼児・児童・生徒も、昨年の軽度発達障害から全障害と枠を広げ、巡回相談も1~3回と回数を増やしました。

個別のニーズにできるだけ対応していきますので、子どもたちへの指導・支援や対応に困られた時は係にご相談ください。

## 障害児教育連続研修

四回の連続研修です。今年度は日々の指導にすぐ生かせるような研修内容にしました。実践例や具体的な指導法について話していただく予定です。

- 第1回 5月29日（月） 内藤 壽 教材作りのポイントとヒント
- 第2回 6月 8日（木） 星野 和夫 知的障害児への算数の授業の工夫
- 第3回 6月23日（金） 古志 康則 肢体不自由児への生活支援の工夫
- 第4回 7月10日（月） 新澤 伸子 自閉症児のコミュニケーション力を高めるために

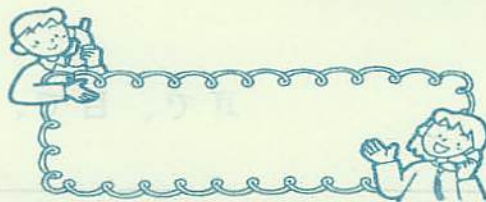
**=出会い、ふれあい、学び**  
豊中市教育センターでは、がそれぞれ連携しながら、華しています。だれもが魅力ある子どもとの心のふれあい、子ぶ姿を願っています。

でも、この願いは、一朝一できるものではありません。では、そんな願いを4つの係の業務を通してサポートしたいと考えています。センター研修の一部を紹介します。

さあ、教育の広場で、多く会い、ふれあい、学びあいま



# 教育相談係から



## サタデー相談(初期相談専用)

3歳半から中学生まで子どもとその保護者を対象とし、心理・発達などに関する悩みや質問についての初期相談を今年度より始めました。

基本的に一回のみの単発相談を行いますので、継続して相談を必要とする場合等は、適切な相談機関を紹介します。

- ★相談方法 面接相談・プレイセラピー等(予約制)
- ★相談日時 毎週土曜日 9:00~12:00
- ★相談員 心理職等
- ★電話番号 6844-5292

## 教育相談研修 5月25日(木)15:00~

「揺れ動く子どもたちのこころ—子ども理解とその関わり方— (市民公開講座)」

武庫川女子大学 教授 西井 克泰

コミュニケーションや人間関係をどのように培っていくのか、それぞれの発達段階に応じた子ども理解とその関わり方を中心とし、また、予防という視点でプログラムもお話いただく予定です。ふるってご参加ください。

(7月25日には、具体的な子どもの姿を示した事例研修会も予定しています。)

# 情報・科学教育係から



◇情報・科学教育係では、教育の情報化に向け、子どもたちの「情報活用能力」の育成や「わかる授業」の支援のため、とよなかスクールネットの充実、デジタルコンテンツの活用、校内LAN整備などの事業に取り組んでいます。

また、「タッチ・座・サイエンス」(子ども科学振興事業)や理科教育の充実を図り、科学教室、親子理科講座、サイエンスフェスティバルなど子どもの興味関心を喚起できる催しや、授業で活用できる研修、講座を展開するなど、先生方のサポートをしていきたいと考えております。

### お知らせ

ネットワーク配信コンテンツ活用事業では、1学期の授業実践コンクールを公募しています。ネットワーク配信コンテンツを活用し、実践された指導案等をコミュニティサイト (<http://neco.et.soft.ivate-pu.ac.jp/index.html>) にアップしてください。その中から、優秀なものが選出されます。皆さんふるって、参加してください。

### ◇情報・科学教育係の研修の一部を紹介いたします。

- |   |       |          |
|---|-------|----------|
| 授業での実験・観察の方法を習得したい!                     | ----- | 理科教育研修   |
| サツマイモ?カイコ?どうしたらいいの?                     | ----- | 理科教材研修   |
| 環境学習のヒントをつかみたい!                         | ----- | 環境学習研修   |
| もう一度学びたい・ワード、エクセル、パワーポイント、スクールネットって?--- | ----- | 情報教育基礎研修 |
| 情報化を展望した授業を考えたい!                        | ----- | 情報活用研修   |

びあい= 4つの係 業を展開 する授業、 子どもの喜

々に実現 センター がそれぞ れていき たの業務や

の方に 出 しょう。



## 耳で、目で、心で

小学3年生のAさんが教育センターにやってきました。いつも元気にプレイルームまで走っていくのですが、今日は黙ってゆっくり歩いています。部屋に入っても何も言わず、落ちていたボールを蹴ります。でも転がったボールはそのまま。追いかけるつもりもないようです。

「今日は元気ないね？」声をかけられて、ちらっと担当者を見るものの、うつむいてミニカーをつついていきます。

「何かあったのかな？」Aさんはやはり何も答えず、離れたところに行ってしまった。そのうち、棚に並んだ人形を爪ではじいて倒し始めました。担当者はしばらく見ている、そっと後ろから声をかけました。

「みんなやっつけちゃいたいのかな？」Aさんは少し振り返りましたが、答えずそのまま続けています。全部の人形が倒れてしまうと、やっと担当者を見てにこっと笑いました。すっきりしたような穏やかな顔でした。

「みんなやっつけてすっきりしたの？」「うん」

それからさっきよりは少しだけ元気になって、「先生これしよう！」と玩具を選んで遊び始めました。遊びながらAさんはぽつんと

「今日ね、学校で友達に意地悪されたんだ」と話し始めました・・・。



子どもに声をかけてもすぐに答えが返ってこない、そんな光景はよくあると思います。子どもは、その言葉をどんな風に受けとめたのでしょうか。言われていることは分かっても、答える気持ちの準備ができていないのかもしれないかもしれません。答えるのには勇気やエネルギーがいるのかもしれないかもしれません。“答えたくない”という返事なのかもしれないかもしれません。もしかしたら、もっと気になることがあって、それどころではないのかもしれないかもしれません。

そんな時、返事があるかどうかではなく、その言葉を子どもがどう聞いているのか、どう感じているのか、子どもの様子に注目してみることが一つの手がかりになるかもしれません。答えない間、その子は何をしているのでしょうか、表情はどうでしょうか。返事はなくても様子をそっと見守ることで、子どもの気持ちがちょっと伝わってくるかもしれません。ゆっくりと待っていれば、あとから話してくれることもあります。

言葉は届いています。そして返事もきっと、言葉以外のいろんな形で大人に向けて発信されています。ですから耳だけでなく目で、心で、しっかりと受けとめてあげたいですね。

(村田)